

# 平成29年度 普及のあゆみ



平成30年3月

熊毛支庁屋久島事務所農林普及課  
鹿児島県熊毛郡屋久島町安房650番地  
TEL 0997-46-2236  
FAX 0997-46-3384

## は じ め に

29年度の地域農業は、走り新茶の高値取引に始まり、子牛価格の高値安定、8月には屋久島たんかんの「かごしまブランド10周年記念生産者大会」が開催されるなどスタートの良い年でしたが、その後の相次ぐ台風の襲来や日照不足の影響で、主品目であるぽんかん・たんかんの生産量が落ち込むなど変化の大きな年でした。

一方、農業・農村を取り巻く環境は、高齢化に伴う担い手の減少、それに伴う耕作放棄地の増加やグローバル化の急速な進展に伴う輸入農産物の増加、消費者の食の安心・安全に対する関心の高まりなど大きく変化しています。

このような中、本県では、「かごしまの食と農の県民条例」や「食と農の先進県づくり大綱」のもと、生産力の強化、販売力の強化、付加価値向上への取組強化、農村の多面的機能の維持・発揮を柱とした攻めの農業の実現に向けての施策が展開されています。

屋久島事務所農林普及課農業普及係では、これらを踏まえ、地域農業のめざすべき姿を長期的に展望し、7つの普及課題を設定し、関係機関・団体等と連携して農業者とともに地域課題の解決に向けて活動を展開してきました。

この度、これらの活動の経過や成果並びに実証・展示ほの成績を「普及のあゆみ」としてまとめました。今後、地域農業の振興や、地域農業を担う個別経営体や組織の育成に活用いただければ幸いです。

終わりに、実証・展示ほの設置等にご協力いただきました農業者の方々、普及指導活動を展開するにあたり、様々なご支援・ご協力いただきました指導農業士をはじめ普及指導協力委員の方々、屋久島町、屋久島町農業委員会、種子屋久農業協同組合等関係機関・団体の皆様に、心より感謝申し上げます。

平成30年3月

屋久島事務所農林普及課  
課長 井口寿郎

# 目 次

## I 普及活動事例

- 1 屋久島農業を担う人材の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 地域の特性を活かした畑作農家の育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 たんかん・ぼんかん栽培農家の経営安定・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 屋久島の特性を活かした茶産地づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 5 生産性の高い肉用牛経営の確立・推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 6 持続的な地域農業の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 7 屋久島の農林水産物を活かした地産地消ビジネスの推進・・・・・・・・ 13

## II 実証・展示ほ等成績

- 1 改植に向けた改植先樹種の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 2 一番茶後の整枝位置・時期が二番茶品質へ及ぼす影響・・・・・・・・ 17
- 3 実えんどう品種比較試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

## III 参考資料

- 1 平成29年の主要作物生育経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 2 平成29年の気象データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 3 ミカンコミバエ種群発生及び防除対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 4 ミニ情報でつづるこの1年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

# I 普及活動事例

# 課題名 屋久島農業を担う人材の確保・育成

## 【成果の要約】

経営改善計画書の作成支援を行い、認定農業者78戸を確保できた。また、目標の達成レベルは異なるが、モデル農家15戸の経営改善が図られ、研究会活動を通じて、さつまいもの苗確保対策、茶の更新技術の改善等の成果の波及が図られた。青年農業者へはプロジェクト活動を通じた技術支援をし、青年農業士1名が認定された。

## 1 対象

認定農業者79戸，屋久島町認定農業者連絡協議会1組織，屋久島町アグリネット44名，経営体育成支援対象者15名，研究会組織4組織，新規就農者13名  
屋久島4Hクラブ11名，屋久島つわぶき会12名，しゃくなげ会12名

## 2 課題を取り上げた理由

屋久島町の認定農業者数は、目標数値78戸を確保しているが、基本構想の目標所得を達成している農業者は少ない状況にあり、目標所得を達成できるよう経営改善の支援が必要である。また、将来の担い手を確保するため、新規就農者を対象とした基礎研修会や部門研修等の充実を図り、新規就農者の定着を図る必要がある。また、4Hクラブ等の組織活動を通じて、次代の農村リーダーとしての資質向上・能力向上を支援する必要がある。

## 3 活動内容

### (1) 認定農業者の育成確保

担い手協議会と連携して12戸の再認定の支援を行なった。また、簿記研修会，法人化研修会，労務管理研修会を開催し，法人化の誘導をした。

### (2) 地域農業を牽引するモデル経営体の育成

モデル経営体15戸に対して，経営改善計画の作成支援，課題を解決する技術及び経営の改善支援を行った。

4部門（さつまいも，果樹，茶，畜産）の研究会で，実証ほの設置や研修会，現地検討会等を開催し，研究会活動を通して産地育成の支援を行った。



〈法人化研修会〉



〈労務管理研修会〉

(3) 新規就農者及び青年農業者の確保育成

新規就農者励ましの会や現地就農トレーナーと連携した基礎研修及び部門別研修会を開催し，新規就農者の定着を支援した。

屋久島4Hクラブのプロジェクト活動を支援し，地区青年農業者会議における主体的な発表を支援した。



〈真空包装機を使って農産加工に挑戦中〉

(4) 農村女性の農業経営等参画推進

しゃくなげ会(若手女性農業者組織)会員に対し女性農業経営士養成研修や農業経営管理研修，農産加工技術習得研修等へ参加誘導した。

## 4 活動の成果

(1) 認定農業者の育成確保

12戸の再認定支援を行い11戸が再認定となり，78戸の認定農業者を確保することができた。また，今年度開催した「労務管理研修会」は法人化志向農家にも好評で，法人化への基盤づくりを支援することができた。

(2) 地域農業を牽引するモデル経営体の育成

モデル経営体15戸の経営改善目標の達成レベルに差はあるが，5年間の支援活動を通じて，技術の向上，経営面積の拡大，所得の拡大等の成果が得られた。また，研究会活動を通じて，さつまいもの苗供給システムの構築，茶の更新技術マニュアルの改訂，果樹の改植の手引き作成，子牛セリ販売頭数の増加等の成果が得られ，産地育成に寄与できた。

(3) 新規就農者及び青年農業者の確保育成

新規就農者13戸については，給付金を受給している農家も多く所得が確保できている農家が少ないため，継続して支援する必要がある。プロジェクト活動については，自主的な活動ができており，6戸が地区青年会議で発表することができた。青年農業士については果樹で1戸が取得できた。

(4) 農村女性の農業経営等参画推進

女性農業経営士養成研修に1名参加，パソコン簿記中級研修や各種研修会，経営の多角化にも積極的に参画している。

## 5 今後の課題

(1) 認定農業者の確保及び継続した経営改善支援

(2) 新規就農者の確保定着及びプロジェクト活動の活性化支援

(3) 主体的に経営に参画する女性農業者の育成確保

## 6 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇蛸原，上福元，眞正，濱上，東原

## 課題名 地域の特性を活かした畑作農家の育成

### 【成果の要約】

焼酎用さつまいの苗供給体制が構築され、農家に4、5月植えの苗を供給することができた。また、ばれいしょのスケジュール防除は防除効果が高いが、今後の普及推進が課題となった。

### 1 対象

畑作農家46戸，畑作研究会7戸，焼酎用さつまいも農家15戸，ソロヤム増収対策協議会21戸，JA野菜部会ばれいしょ栽培農家20戸

### 2 課題を取り上げた理由

畑作農家の拡大を図り，実需者のニーズに対応し，継続出荷できる体制を確立する必要があるが，その担い手となる畑作農家が少ない。南部地区を中心に基盤整備が進んでおり，畑作農家の育成が必要である。

### 3 活動内容

#### (1) 畑作営農の支援体制の強化

技連農産園芸部会を中心に，畑作営農それぞれの品目の抱える課題について，関係機関（町，JA，農林普及課）で対応策を検討した。また，焼酎用さつまいも苗の供給については，農家，実需者，関係機関・団体で協議した。

#### (2) 畑作物の生産性向上

##### ア 苗供給システムの充実（焼酎用さつまいも）

屋久島町農業管理センターの遊休ハウスを活用した苗供給体制を構築し，苗の供給を支援した。

##### イ 島内種芋供給体制の検討（ソロヤム）

農業開発総合センター熊毛支場と連携し，優良種苗の供給を行っており，島内での種芋供給体制の構築について検討した。

また，坪掘り調査を実施し，出荷予測の支援を行った。



〈苗の育苗状況〉

##### ウ 低収要因対策の実施（ばれいしょ）

H28～29年は，年内の気温が高いこともあり疫病や青枯病が多発しており，実証ほを設置し，スケジュール防除を指導した。

### 4 活動の成果

#### (1) 畑作営農の支援体制の強化

焼酎用さつまいもの苗供給及び生産対策については，関係機関で支援する体制を継続強化することができた。

## (2) 畑作物の生産性向上

### ア 苗供給システムの充実（焼酎用さつまいも）

5月末までに115万本を供給する計画であったが、苗の確保が遅れ6月末で予定本数を農家に供給することができた。供給時期は遅れたが、農家の栽培面積の拡大に寄与することができた。

### イ 島内種芋供給体制の検討（ソロヤム）

加工業者で育苗を行う体制を協議したが、労力確保等の課題があり、供給体制を構築することはできなかった。



〈現地検討会風景〉

### ウ 低収要因対策の実施（ばれいしょ）

昨年より、年内の気温が低いこと、植え付け時期を遅くしたこと等により、疫病の発生は少なかった。また、実証ほを設置し、疫病のスケジュール防除を呼びかけたが、実施する農家は少なく課題が残った。

## 5 今後の課題

### (1) 焼酎用さつまいも

苗の育苗支援を行い、安定供給と供給本数を増やす必要がある。また、つる割病が増えており対策が必要である。

### (2) ソロヤム

島内種芋供給体制については継続して協議する。

### (3) ばれいしょ

疫病の発生については、気象条件により発生の程度に差があるが、継続して、スケジュール防除を実施する必要がある。

## 6 担当した普及職員（○はチーフ）

○蛸原



## 課題名 たんかん・ぽんかん栽培農家の経営安定

### 【成果の要約】

改植先の樹種候補として、「KP-2」は「吉田ぽんかん」と比べて着色が早かった。8月には、「屋久島たんかんかごしまブランド10周年記念生産者大会」を開催し、改植推進や若手農業者の育成、規模拡大等を進めることを確認できた。若手果樹生産者の植栽本数を計数し、今後補植、改植すべき本数が把握できた。

### 1 対象

果樹栽培農家364戸，JA果樹部会246戸，果樹研究会17戸，ACCY5人

### 2 課題を取り上げた理由

屋久島では、たんかん、ぽんかん主体の果樹経営が行われているが、贈答需要の減少や嗜好性の多様化等により市場単価は低下傾向が続いている。また、様々な高糖系中晩柑類など産地間競争は激しくなっている。このような中、果樹農家の経営安定には省力化機械導入の普及や生産性の低い老木の改植に向けた取組が必要である。また、生産者、関係機関・団体が連携を密にし、産地課題の解決を図る必要がある。

### 3 活動内容

#### (1) 果樹産地再編

改植先の樹種候補として「たんかん」以外に「KP-2（早生系ぽんかん）」、「みはや」、「津之輝」、「黄みかん」の4樹種を選定し、生育調査を行った。

#### (2) 産地力の維持

果樹生産組織を対象に病虫害防除や栽培管理などについて、各研修会や講習会を通して指導した。また、月1回発行するフルーツ情報を通じて基本管理の徹底について情報提供をした。

また、「屋久島のたんかん」がかごしまブランドに認定されて10周年を迎えたことから、記念大会を開催した。



〈KP-2〉

#### (3) 若手果樹生産者への支援強化

果樹若手生産者を対象に、技術や資質向上を図るため屋久島地区指導農業士会と連携して研修会を実施した。

### 4 活動の成果

#### (1) 果樹産地再編

「KP-2」は、「吉田ぽんかん」と比べて着色が早く、11月下旬に8分着色となった。糖度は9.0度と低かったが、初着果であったことが影響していると考えられる。現地調査ほ場の生産者からは、着色が早いカラーリング処理の省力化が期待されることから、高く評価された。

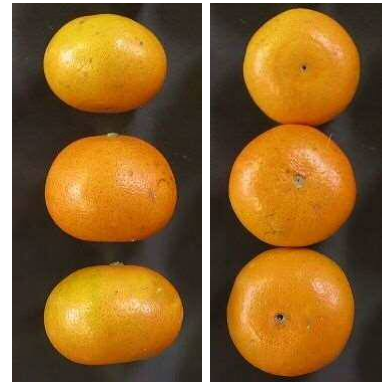


〈左：KP-2  
右：吉田ぽんかん〉

「みはや」は今年が初着果で、11月末に9分着色となり、糖度11.2度、クエン酸0.67%となった。着果が多い樹は糖度が高い傾向となった。

「津之輝」は今年が初着果で、2月上旬に糖度14.4度、クエン酸1.40%となった。

「黄みかん」は、3月上旬で糖度11.3度、クエン酸1.34%となった。



〈みはや〉

## (2)産地力の維持

フルーツ情報は、図表を増やし読みやすい紙面に工夫した。個人販売グループでは、勉強会に活用される事例もあった。

各種研修会では、病虫害防除や栽培管理について研修を行った。また、農作業時負担軽減用装着補助器具（通称アシストスーツ）の実演を行い、体験者からは、試験的にもっと使ってみてみたいといった反応が得られた。

8月には、「屋久島たんかんかごしまブランド10周年記念生産者大会」を開催し、改植推進や若手農業者の育成、規模拡大等を進め、次の10年に向けてさらなる発展を目指すことが確認できた。



〈かごしまブランド10周年記念生産者大会〉



〈アシストスーツ体験〉

## (3)若手果樹生産者への支援強化

技術や資質向上を図るため、現地就農トレーナー研修を実施し、病虫害防除や栽培管理について現地検討を行った。

また、各園の植栽本数を計数したことで、収量増加に向けて今後補植・改植すべき本数が把握でき、計画的に補植・改植を進めていく。



〈現地就農トレーナー研修〉

## 5 今後の課題

- (1)改植先の4樹種の現地試験の継続
- (2)改植の推進と改植後の管理支援
- (3)若手果樹生産者の個別支援

## 6 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇濱上

# 課題名 屋久島の特性を活かした茶産地づくり

## 【成果の要約】

収量確保を意識した茶園管理・摘採判定により、10aあたり粗収益は前年比149%に改善した。また、実証試験結果等を取りまとめた「屋久島地域茶園更新マニュアル」を改訂した。

## 1 対象

屋久島町茶業振興会24戸

## 2 課題を取り上げた理由

生産者は、高齢化等により減少傾向にあるものの、茶園流動化や耕作放棄地を活用した新植等により、茶栽培面積は増加傾向にある。荒茶価格は、リーフ茶の消費減退等により市場単価が低迷している中、走り新茶産地として、特に一番茶については、深蒸しや若芽摘採による高品質茶生産が定着し、流通関係者から高い評価を受けている。さらなる生産基盤強化を目指し、消費者の安全・安心志向の高まりに配慮しつつ、生産管理技術の向上等を通して、茶生産者の経営安定を図る必要がある。

## 3 活動内容

### (1) 生産基盤の強化

#### ア 優良品種等への新・改植の推進

新植2人（うち1人は新規参入で有機栽培志向）、改植1人を対象に、主に病害虫防除と台風対策について指導した。

#### イ 屋久島地杉等加工残さ（樹皮）のマルチ利用検討

これまで農業面でほとんど活用されていなかった加工残さについて、マルチ代替としての利用へ向け実証ほを設置した。

### (2) 生産管理技術の向上

#### ア 高品質茶生産技術の高度平準化

高品質茶生産志向が高い当地域において、収量確保を意識した更新技術確立へ向け実証ほを設置した。また、潮風害リスク軽減を目指した茶園管理を指導した。

#### イ 有機茶栽培の収量・品質向上の検討

有機茶栽培農家を対象に、深蒸し茶製造指導を行った。また、後継者・従業員向け研修会を実施した。

### (3) 安心・安全なクリーンな茶づくりの推進

#### ア 第三者認証制度の推進

新規のK-GAP認証取得支援を行った。また、G-GAP認証取得を目指す団体を対象に、コンサルト連携し定期的に茶園管理等について支援した。



＜加工残さ実証ほ設置風景＞

## 4 活動の成果

### (2) 生産基盤の強化

有機栽培志向農家者へは、初期生育が重要なことから、定植2年間は慣行栽培へ誘導

した。病虫害防除については、残留性が低い薬剤を選択し、順調に管理できている。

加工残さのマルチ代替については、作業時間等調査した結果、利用可能性は高いと考えられた。

## (2) 生産管理技術の向上

研修会では実証ほ場を中心に紹介し、収量確保を意識した更新技術について理解が深まった。また、被覆・摘採判定の見直しを行った結果、10aあたり粗収益は昨年比149%に改善した。併せて、実証試験結果等を取りまとめた「屋久島地域茶園更新マニュアル」を改訂した。

潮風害リスク軽減を目指した茶園管理に取り組み、9月の台風による被害を全茶園回避できた。

有機栽培農家への研修会を通し、特に小売り茶の品質改善意識が高まった。

## (3) 安心・安全なクリーンな茶づくりの推進

K-GAP認証取得志向者へは、申請書提出まで誘導でき、町内のGAP認証取得工場は43%から67%へ増加が見込まれる。また、G-GAP志向団体は、本年度は前段階としてJGAP認証を所得した。認証取得をきっかけに現地検討会が定例化しつつあり、生産意欲向上につながると期待される。

# 5 今後の課題

## (1) 生産基盤の強化

大面積（1ha程度）の新植は、除草作業の遅れが目立った。経験の浅い若手農家であることから、青年プロジェクトに設定し、生育状況を記録している。また、屋久島町は比較的小規模農家が多く、面積拡大に伴う長期的な計画を検討する。面積拡大に伴い、茶工場処理能力向上を検討する必要がある。

## (2) 生産管理技術の向上

粗収益は改善傾向にあるが、品種間差が著しく大きい。中生～晩生品種について実証ほを設置する。

有機茶工場は老朽化が進んでおり、工場再編を含め町内の将来的な生産体制を検討する必要がある。

## (3) 安心・安全なクリーンな茶づくりの推進

GAP認証未取得工場は2工場（有機JAS認証を取得）。要望に応じて対応したい。

# 6 担当した普及職員（〇はチーフ）

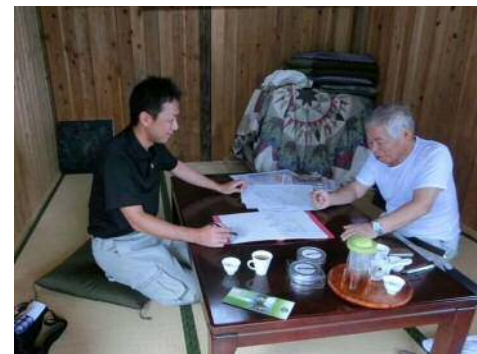
〇眞正



<現地研修会風景>



<深刈更新の研修会風景>



<K-GAP取得支援風景>

## 課題名 生産性の高い肉用牛経営の確立・推進

### 【成果の要約】

経営改善計画に沿った規模拡大を実践する中、子牛哺育期の飼養管理や環境改善、繁殖成績の向上に取り組み、飼養頭数は屋久島全体で20頭増加し、子牛の市場価格は106%であった。また、飼養管理技術の高位平準化を図るため、屋久島版飼養管理技術チェックリストを作成した。

### 1 対象

屋久島町和牛振興会16戸，屋久島和牛研究会7戸，口永良部島肉用牛農家3戸

### 2 課題を取り上げた理由

屋久島の肉用牛農家は、高齢化が進む中、飼養戸数・頭数ともに減少傾向にあり、産地規模の維持を図るには、経営基盤の強化と生産技術の平準化が必要である。また、増頭意欲が高い農家に対し、経営改善計画の検討・実践を支援し、農家間に差のある技術の高位平準化を図る必要がある。

### 3 活動内容

#### (1) 産地規模の維持

##### ア 拡大志向農家の増頭実践支援

飼養管理チェックリストを活用し、飼養管理技術の実態調査を行った。また、子牛せり市場にて子牛発育調査を実施し、調査結果をもとにした巡回指導や研修会を通して、増頭にかかる飼養管理（子牛哺育方法など）の改善や優良雌牛の保留・育成を支援した。



〈市場での発育調査〉

#### (2) 繁殖成績の向上

##### ア 受胎率の維持・向上

繁殖成績をもとに、繁殖技術の高位平準化を支援した。町営牧場の母牛預託を活用し、飼養管理の密度低下による飼料給与量の確保や、受胎牛と未受胎牛を区別することで、発情観察の徹底を指導した。

#### (3) 子牛の商品性向上

##### ア 子牛離乳前後までの発育改善

キャトルセンター預入時にて、各農家の子牛発育調査を実施し、調査結果をもとに課題抽出と改善策を指導した。

##### イ 屋久島地杉等のこくずの利用

島内で発生する屋久島地杉等のこくずを敷料に活用し、子牛の飼養環境の改善に取り組んだ。

### 4 活動の成果

### (1) 産地規模の維持

チェックリストにより、とくに子牛の哺育管理技術にばらつきがあることが分かった。そこで、子牛哺育期の飼養管理について研修会を開催し、自然哺乳でも子牛専用スペースの確保に誘導できた。屋久島全体の飼養頭数は20頭増加し、子牛販売頭数は10頭増の365頭となった。また、定期的に技術確認をするため、屋久島版飼養管理チェックリストを作成した。



〈研修会の様子〉

### (2) 繁殖成績の向上

分娩間隔は381日で昨年より5日長くなった。平年並みの農家が多い中、分娩間隔が71日長くなった農家があり、初回授精日が79日と長く発情発見率が低いことが原因と考えられたため、現在は発情発見器具を活用しており、今後、改善が期待される。



〈子牛専用スペースの確保〉

### (3) 子牛の商品性向上

子牛発育の状況を数値化することで、各農家の育成技術が明確になり、課題抽出しやすくなった。

課題解決方法として、飼料給与量の改善やのこくす利用による環境改善の取り組みにより、キャトルセンター子牛預入時の日齢体重の発育標準値平均以上割合は78%から85%へ改善され、子牛市場価格比は106%となった。



〈技術改善の検討〉

## 5 今後の課題

### (1) 産地規模の維持

規模拡大志向農家が増えており、経営改善計画の作成支援や町営牧場（繁殖牛預託・キャトルセンター）を有効活用した規模拡大の検討、経営コストの低減による所得確保を図る必要がある。

### (2) 繁殖成績・子牛の商品性向上

繁殖技術や子牛哺育・育成管理技術は農家間での差が大きく、子牛哺育方法等の実証区を設置し、技術の高位平準化を図る必要がある。

## 6 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇東原

# 課題名 持続的な地域農業の推進

## 【成果の要約】

原地区の農地マップをもとに村づくり農地部会員10名の参加により、樹園地の作付品目や、ほ場条件、管理状況、設備等整備状況等を地図に落とし、CADを活用し整理した。さらに、作成した樹園地マップをもとに、園芸組合員で、ワークショップを実施し、今後の産地維持のため検討をした。

## 1 対象

管内全集落 24地区、原地区12戸

## 2 課題を取り上げた理由

高齢化の進行、担い手農家の減少とともに樹園地をはじめとする農地の荒廃がすすみつつある。そこで、関係機関団体と連携を図り、一体となって地域ぐるみで地域営農のあり方に向けた検討と仕組みづくりについて、農地中間管理事業の活用や人・農地プランの検討等を通してすすめていく必要がある。

## 3 活動内容

### (1) 集落営農等の推進

#### ア 推進地区の話し合い活動支援

関係者(支庁農政普及課・町農林水産課・農業委員会・農林普及課)で「人・農地プラン」の作成にむけた検討会を実施し、推進方法等意識統一を図った。

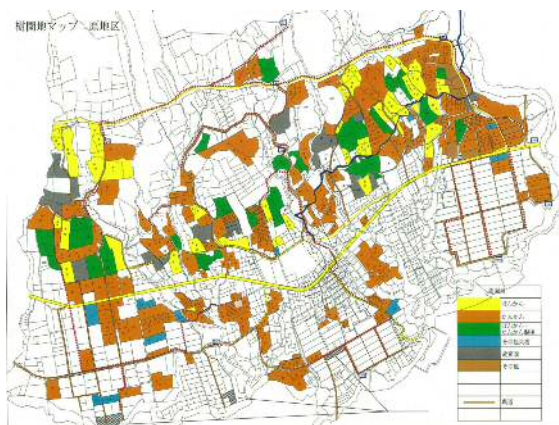
### (2) 地域農業を支えるモデル集落営農の育成

#### ア モデル地区における農地利用の検討

対象地区の農地に関するデータを整理した。進め方について係会や集落の役員らと検討し、原園芸組合総会および研修会樹園地の現地確認調査を提案した。地区内の農地マップをもとに、有志者10名の参加により実施樹園地の作付状況等の記入した後、2班に分かれ、作付品目、ほ場条件、管理状況、設備等整備状況等を地図に落とし、CADを活用し整理した。作成した樹園地マップをもとに、園芸組合員で、ワークショップを実施した。



〈図面をもとに真剣に検討中〉

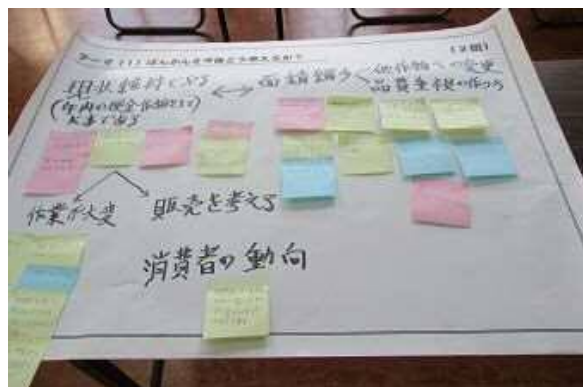


〈CADを活用して樹園地を色分け〉

テーマは、①「ぼんかんを今後どう考えるか？」②「5,10年後どう思うか？」③「農地を維持するための農地の利活用は？」で世代ごとに3班に分かれてKJ法を使って現状、課題、対策など意見を出し合った。各テーマ30分間づつ検討した。



〈分科会で意見集約中〉



〈各自の思いは付箋紙に記入〉

原園芸組合では、農作業の重労働軽減を目指して、メーカーによる「負担軽減用装着補助器具」の実演会も開催した。

#### 4 活動の成果

##### (1) 集落営農等の推進

###### ア 推進地区の話し合い活動支援

人・農地プランの新規作成や見直しには至らなかったが、農地中間管理事業に取り組む地区が、新たに3地区あった。

##### (2) 地域農業を支えるモデル集落営農の育成

###### ア モデル地区における農地利用の検討

ワークショップで、出された意見を整理し、発表することで参加者の問題意識を共有することができた。また、そのためには、ビジョンの作成と意識改革が必要と認識できた。

#### 5 今後の課題

##### (1) 集落営農等の推進

集落の話し合い活動支援を行っていく。

##### (2) 地域農業を支えるモデル集落営農の育成

新たなモデル集落の育成を行っていく。

#### 6 担当した普及職員（○はチーフ）

蛭原, 真正, 濱上, 東原, ○上福元



〈10/13付け南日本新聞に掲載〉



〈全体会で発表〉



## 課題名 屋久島の農林水産物を活かした食育・地産地消ビジネスの推進

### 【成果の要約】

農産物に付加価値をつけた商品づくりにむけて、計画的にセミナーを実施し、専門家の効果的な活用により、自信を持って商品開発や販路拡大に取り組めたほか、「屋久島自然の恵み販売拡大協議会」を核に関係機関や関係者と連携を図った。また、継続的な伝承活動の実施により食育支援の要望が増加した。

### 1 対象

女性起業・農産加工グループ5G、6次産業化農家及び志向農家12戸  
屋久島つわぶき会13名、しゃくなげ会12名、屋久島生活研究グループ<sup>1</sup>18名

### 2 課題を取り上げた理由

平成24年度以降、3戸の農業者が6次産業化・地産地消法に基づく総合化計画の認定を受けた。平成27年度から地域振興推進事業を活用し、6次産業化に取り組むための専門的な知識・技術、手法、情報提供等の支援に取り組んできており、今後、さらに、それらの活動の支援をするとともに、屋久島の恵み（屋久島の農林水産物・加工品）の販売を拡大するため、地域が一体となって取り組む体制を整え、6次産業化農家やその志向農家らのネットワークを構築する必要がある。また、商品開発に向けた取り組みには、地域資源の発掘や伝承活動への支援も必要である。

### 3 活動内容

#### (1) 農産物に付加価値をつけた商品づくりの支援

ア 6次産業化農家等の経営発展支援及び6次産業化に向けた基本知識技術の習得支援

商品開発を目指した基礎加工技術研修や食品表示、商標や知的財産権の研修、専門家による個別相談、島内商談会を通じ、販路拡大や付加価値向上を支援した。

6次産業化農家及び志向農家等に対し、販路先や販売方法の意向について調査(11名)し、グルーピングし、ネットワーク化の検討した。



〈屋久島自然の恵み商談会〉

表. 各種セミナーの実施状況

時期	研修等名	参加者数
7/4~7/5	農大加工基礎研修	のべ50名
8月24日	6次産業化個別相談会	相談者5名
8月25日	食品表示研修会	25名
10月24日	商標個別相談会	相談者3名
10月24日	商標・知的財産権セミナー	10名
11月8日	自然の恵み商談会	出展者10事業者 (参加者50名)
11月28日	労務管理研修会	15名



〈食品表示研修会（8月）〉

#### イ 地域資源の発掘や伝承等の支援

町内小学生や島外の修学旅行生を対象に、郷土料理や行事食、地域産物を活用した料理実習及び研修を実施した。講師は、生活研究グループ員や屋久島つわぶき会員が担い、異世代交流もできた。



〈永田小学校にて食育支援〉



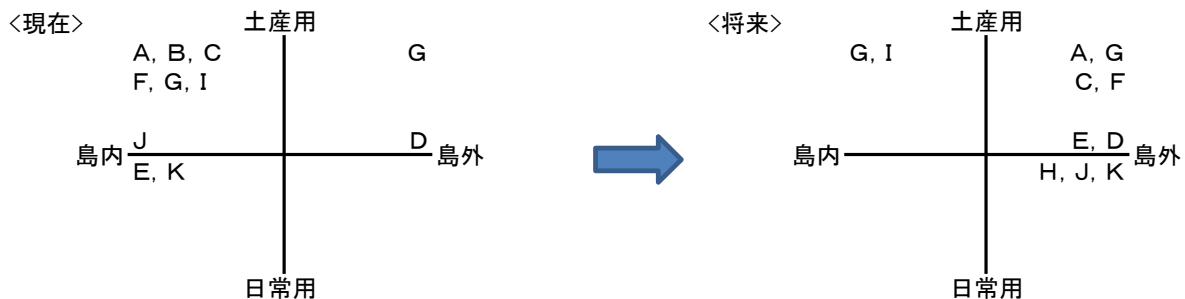
〈学ぼう・伝えよう講座〉

### 4 活動の成果

#### (1) 農産物に付加価値をつけた商品づくりの支援

ア 6次産業化農家等の経営発展支援及び6次産業化に向けた基本知識技術の習得支援  
農産物に付加価値をつけた商品づくりに向けて、各種セミナーを実施し、専門家の効果的な活用で、自信を持って商品開発や販路拡大に取り組むことができた。また、付加価値向上として、容器包装の改良表示の変更検討、コラボ商品作りを検討できた。

「屋久島自然の恵み販売拡大協議会」を核に関係機関や関係者と連携を図りながら、販路先や販売方法の意向について調査したところ、将来的には島外へ販路拡大したい人が多数いることがわかった。



#### イ 地域資源の発掘や伝承等の支援

食育支援や伝承講座は、対象に応じた料理実習や研修内容について熱心に検討し、講座前には数回試作した。

### 5 今後の課題

#### (1) 農産物に付加価値をつけた商品づくりの支援

6次産業化農家等の経営発展支援および6次産業化に向けた基礎知識技術の習得支援

### 6 担当した普及職員（○はチーフ）

○上福元 眞正



## Ⅱ 実証・展示ほ等成績

# 課題名 改植に向けた改植先樹種の検討

## 【成果の要約】

改植先の樹種候補として「KP-2（早生系ぽんかん）」、「みはや」、「津之輝」、「黄みかん」の4樹種を検討した。「KP-2」は「吉田ぽんかん」と比べて着色が早く、カラーリング処理の省力化が期待される。みはやは11月下旬で7～9分着色、津之輝と黄みかんはクエン酸が高かった。

## 1 目的

ぽんかん、たんかんは屋久島の果樹の基幹品目であるが、贈答需要の減少や嗜好性の多様化等により市場単価は低下傾向が続いている。また、様々な高糖系中晩柑類が育成・各産地で導入されており、価格低下の一要因ともなっている。

このような中、果樹農家の経営安定には生産性の低い老木の改植に向けた取組が必要である。

そこで、改植先の樹種候補として「KP-2（早生系ぽんかん）」、「みはや」、「津之輝」、「黄みかん」の4樹種を選定し、有望樹種を検討する。

## 2 実証・展示ほの概要

### (1) 設置場所及び担当農家

屋久島町尾之間試験園（みはや、津之輝）  
永田地区 荒田伸作氏（KP-2、黄みかん）  
計屋伸一郎氏（KP-2）  
牧潤三氏（KP-2）  
渡辺祥太郎氏（KP-2）

### (2) 設置の概要

	植栽年月， 苗		
KP-2	平成28年3月	2年生苗植栽	3年生
吉田ぽんかん（対照）			
みはや	平成27年3月	2年生苗植栽	4年生
津之輝	平成27年3月	2年生苗植栽	4年生
黄みかん	平成28年3月	2年生苗植栽	3年生

作型は全て露地栽培

## 3 調査結果等

### (1) KP-2

11月20日に8分着色となり、対照品種の「吉田ぽんかん」と比べて着色が早かった（図2）。糖度は9.0度、クエン酸は0.73%、す上がりは、「吉田ぽんかん」と同程度の発生で軽微であった（表1）。

表1 KP-2，吉田ぽんかんの果実品質 果実採取日：11月29日

	横径(mm)	縦径(mm)	果形指数	果実重(g)	す上がり	糖度(Brix)	クエン酸(%)
KP-2	70.7	57.2	123.6	149.8	0.3	9.0	0.73
吉田ぽんかん	73.8	62.8	117.5	180.6	0.7	9.8	0.82



図1 KP-2着果状況  
(11月9日時点)



図2 KP-2(左)と吉田ぼんかん(右)  
(11月20日時点)

(2)みはや

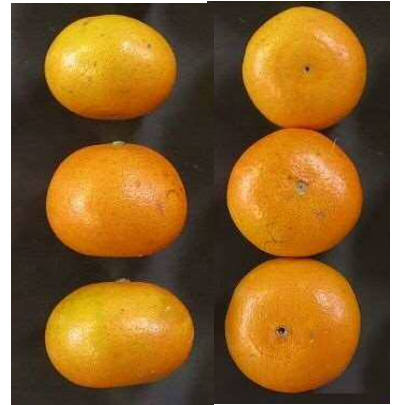
11月29日で7~9分着色となり、糖度11.2度、クエン酸0.67%となった。

(3)津之輝

2月5日に糖度14.4度、クエン酸1.40%となった。果頂部に二重果(でべそ)が確認された。

(4)黄みかん

3月9日で糖度11.3度、クエン酸1.34%となった。



みはや

## 4 考察

(1)KP-2

初着果であったことが影響していると考えられる。現地調査ほ場の生産者からは、着色が早いためカラーリング処理の省力化が期待されることから、高く評価された。

(2)みはや

今年が初着果のため、着果数は少なかったが、年内でも着色が良かった。着果が多い樹ほど糖度が高い傾向となった。

(3)津之輝

本格的な着果は今年からであり、まだ幼木であるため、2月上旬でもクエン酸が高くなり、二重果が発生した。他産地の事例によると、成木になり樹勢が落ち着いてくると二重果の発生は少なくなるようである。

(4)黄みかん

今年が初着果で着果数が少なかったため、3月上旬でもクエン酸が高かった。

## 5 普及性及び残された課題

(1)継続の調査

# 課題名 一番茶後の整枝位置・時期が二番茶品質へ及ぼす影響

## 【成果の要約】

整枝時期が概ね適期（一番茶摘採後17～22日目）の範囲内であれば、一番茶からの整枝高さを5mm程度にすることで、二番茶への遅れ芽混入率は減少できる。

## 1 目的

整枝は、風等により乱れた摘採面を整え、新芽への古葉や前茶期の遅れ芽混入を防ぐために実施する。通常、一番茶後の整枝は2回実施するが、屋久島町では、遅れ芽除去が不十分で品質低下につながっている場面が多く見られる。

ここでは、2回目整枝の時期と位置が遅れ芽混入に及ぼす影響を調査し、適度な整枝法を検討する。

## 2 実証・展示ほの概要

### (1) 設置場所及び担当農家

永久保地区，日高要人

### (2) 設置の概要

表1 処理区の内容

区名	一番茶摘採日	2回目整枝日 (一茶～2回目整枝日数)	一番茶摘採位置からの高さ(mm)
早整枝5mm上げ	4月19日	5月8日(19)	5mm
遅整枝5mm上げ	4月15日	5月8日(23)	5mm
遅整枝10mm上げ	4月15日	5月8日(23)	10mm

## 3 調査結果等

(1) 一番茶摘採位置から5mm上げで2回目整枝を実施した場合、整枝時期の早晚に関わらず遅れ芽混入率は10%程度であった（表2）。

(2) 本物の二番茶芽と一番茶遅れ芽の生育差はかなり大きい（写真1～3）。摘採当日における本物の二番茶芽は柔らかかったが、一番茶遅れ芽は硬化していた（データなし）。



本物の二番茶芽

一番茶で摘採されなかった遅れ芽

写真1 2回目整枝直前



写真2 左写真（5/8撮影）と中央写真（5/18撮影）  
左の枝：本物の二番茶芽  
右の枝：一番茶で摘採されなかった遅れ芽

写真3 右写真（5/28撮影）  
左の3芽：本物の二番茶芽  
右の2芽：一番茶で摘採されなかった遅れ芽

表2 二番茶への一番茶遅れ芽混入割合（n=3）

区名	20cm枠内芽数	うち遅れ芽数	遅れ芽混入割合
早整枝5mm上げ	86.5	8.0	9.2%
遅整枝5mm上げ	94.5	9.5	10.1%
遅整枝10mm上げ	100.0	22.0	22.0%

#### 4 考察

整枝高さを5mm程度にすることで、遅れ芽混入率は減少する。一方で、通常の整枝は10mm程度であり、本技術を実施する際は、本物の二番茶芽を刈り取らないよう細心の注意が必要である。

#### 5 普及性及び残された課題

現地検討会等で紹介済み。整枝に関する考え方が深まっている。



# 課題名 実えんどう品種比較試験

## 【成果の要約】

「まめこぞう」は、生育初期の気温が高くても、心止まりすることなく、安定した収量を確保することができた。慣行品種「ミナミグリーン」に変わる品種として「まめこぞう」が適する。

## 1 目的

農業開発総合センターで育成された実えんどう新品種「まめこぞう」は、良食味で収量性の高い品種特性があるが、昨年度の栽培においては両品種ともに発芽揃いが悪く、収量が低い結果となった。

慣行品種の「ミナミグリーン」の種子の販売が中止となるため、改めて「まめこぞう」の収量性について検討する。

## 2 実証・展示ほの概要

### (1) 設置場所及び担当農家

屋久島町平内 敷根 茂俊

### (2) 設置の概要

ア 試験区の構成 実えんどう品種比較試験

実証区 品種名「まめこぞう」

慣行区 品種名「ミナミグリーン」

イ は種日 まめこぞう：10月15日、ミナミグリーン：10月11日

## 3 調査結果等

### (1) 生育状況

播種後の発芽揃いは、両品種とも良好であったが、10～12月に気温が高く、草勢が弱く、「ミナミグリーン」は12月下旬から心止まり状態となったが、「まめこぞう」は、生育後半まで心止まりすることなく、順調な生育であった。

### (2) 収量調査

1～2月までは、播種日の早い「ミナミグリーン」のほうが収量が高かったが、12月下旬に心止まりとなったため、3月までの総収量は、「ミナミグリーン」より「まめこぞう」が優れた。

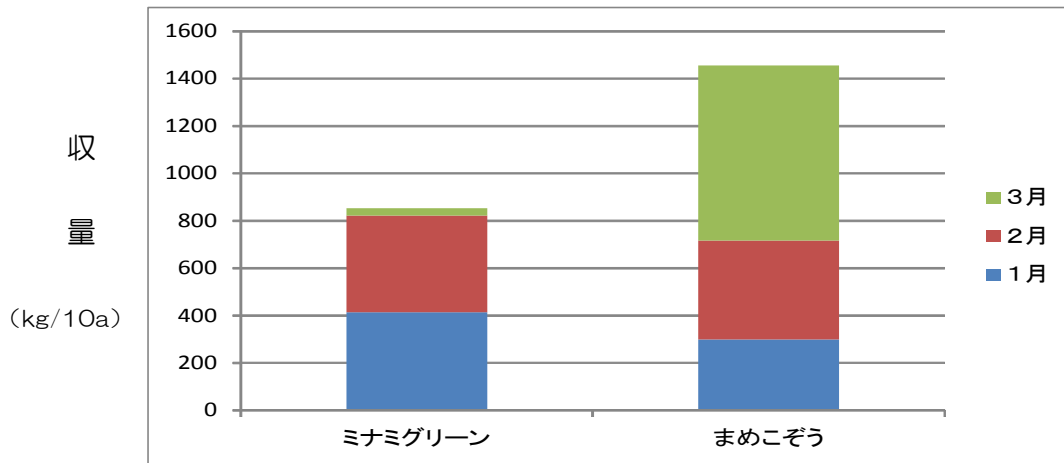


図1 月別収量

区名	1月	2月	3月	合計
ミナミグリーン	413.2	408.7	31.6	853.5
まめこぞう	298.3	417.6	738.6	1454.5

#### 4 考察

慣行品種「ミナミグリーン」は生育初期の気温が高いと、草勢が弱くなり心止まりしやすい傾向にあった。

「まめこぞう」は、草勢はやや弱くなるものの、心止まりすることなく、生育後半まで収穫が可能であった。

以上のことから「まめこぞう」は、慣行品種「ミナミグリーン」に変わる品種として適すると思われる。



〈まめこぞうの生育状況(12/26)〉

#### 5 普及性及び残された課題

屋久島に適した播種時期の選定、「まめこぞう」は、草丈が高いので防風対策を徹底して栽培すること



## III 參考資料

### Ⅲ 参考資料

## 【平成29年の主要作物生育経過】

### 果 樹

#### 【ぼんかん】

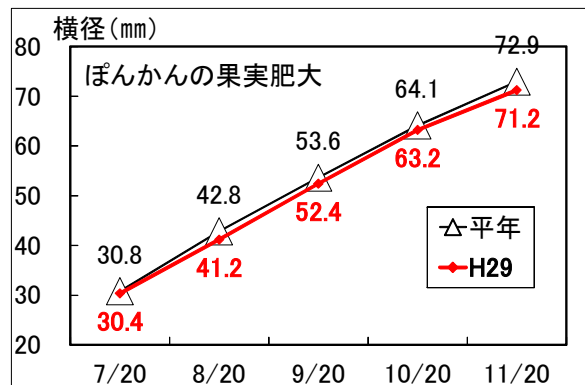
開花は、平年より10日遅い4月27日に満開となり、着花量はやや少なく、最終的な着果量は平年の7割程度となった。

果実肥大は、開花が遅かったものの平年並みとなった。

糖度は平年より低く、クエン酸は平年並みとなった。

台風襲来により、落果や風傷果の被害が発生した。一方、樹勢低下により果実の着色は平年並みか早くなった。

地区名	満開日	着花量
永 田	4月24日	やや少
湯 泊	4月25日	やや少
平 内	4月30日	やや少
小 島	4月28日	中
尾之間	4月27日	やや少
原	4月27日	中
高 平	4月30日	やや少
平 均	4月27日	やや少
平 年	4月17日	



調査日：平成29年11月20日

		糖 度	クエン酸
ぼんかん	平成29年度	9.3	0.93
	平 年	10.0	0.87

#### 【たんかん】

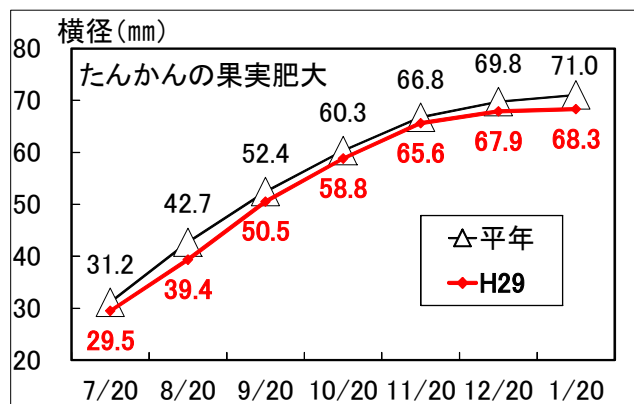
開花は、平年より12日遅い4月22日に満開となり、着花量は少なく、最終的な着果量は平年の7割程度となった。

果実肥大は、開花が遅かったことに加え、昨年度産の着果過多や3度の台風襲来による樹勢低下により、平年より小さかった。

糖度は平年より低く、クエン酸は平年並みとなった。

台風襲来により、風傷果の被害が発生した。一方、樹勢低下により果実の着色は平年並みか早くなった。

地区名	満開日	着花量
永 田	4月23日	少
湯 泊	4月22日	少
平 内	4月22日	少
小 島	4月22日	少
尾之間	4月22日	少
原	4月28日	少
麦 生	4月18日	少
高 平	4月22日	少
平 均	4月22日	少
平 年	4月10日	



調査日：平成30年1月16日

		糖 度	クエン酸
たんかん	平成29年度	9.5	1.03
	平 年	10.4	0.95

## 茶

一番茶は、2月中旬～3月の平均気温が低く推移したことにより、萌芽及び萌芽以降の生育が緩慢で、摘採開始は前年より8日遅く、近年では最も遅い4月12日となった。品質は、芽格重視の生産と、摘採期間中が晴天に恵まれたこともあり、市場での高い評価を維持できた。また、本土産との早晚差が比較的長く、高単価が期待できる走り新茶期間を独占できたため、県平均との価格差が大きかった。特に、4月10日には10mを超える強風を受けたが、新芽に傷が付かないよう、一度被せた寒冷紗を取り外すなど、細心の注意を払った。収量は、前年と比べ増加し、前年夏から秋の茶園管理効果が現れた。

二番茶は、4月下旬以降の気温は平年よりやや低かったものの、晴天に恵まれ生育は早く、一番茶摘採後42日後の5月25日(前年+6日)の摘採開始となった。また、三番茶については、二番茶摘採後39日後の7月10日(前年+14日)から、四番茶については、三番茶摘採後30日後の8月9日(前年+8日)から摘採開始となった。二番茶は品質重視の生産により減収となった。二番茶後は、樹勢回復を目的に深刻更新する茶園が多かったため、三番茶は減収、四番茶は増収傾向であった。

病害虫の発生状況は、8月の干ばつが大きく影響し、虫害が多かった。

## 野菜

### 【ばれいしょ】

台風の影響で平年よりやや定植が遅れたが、気温が低く推移したため、ばれいしょの生育は全体的に平年並みで、心配された疫病の発生もほとんどなかった。また、1月の低温・強風による茎葉の折損が一部に見られた。出荷状況としては、やや小玉傾向で、計画数量448tより少なくなる見込みである。

### 【やまいも】

4月末から5月上旬にかけて植付され、その後、相次ぐ台風の影響で軽度の茎葉の折損が見られた。例年、屋久島北部が11月下旬から出荷を始めるが、今年度は11月の気温が平年よりも低く12月上旬からの出荷となった。1月以降、屋久島南部の出荷が始まり、出荷量は平年並みの50t前後が見込まれている。

### 【さつまいも】

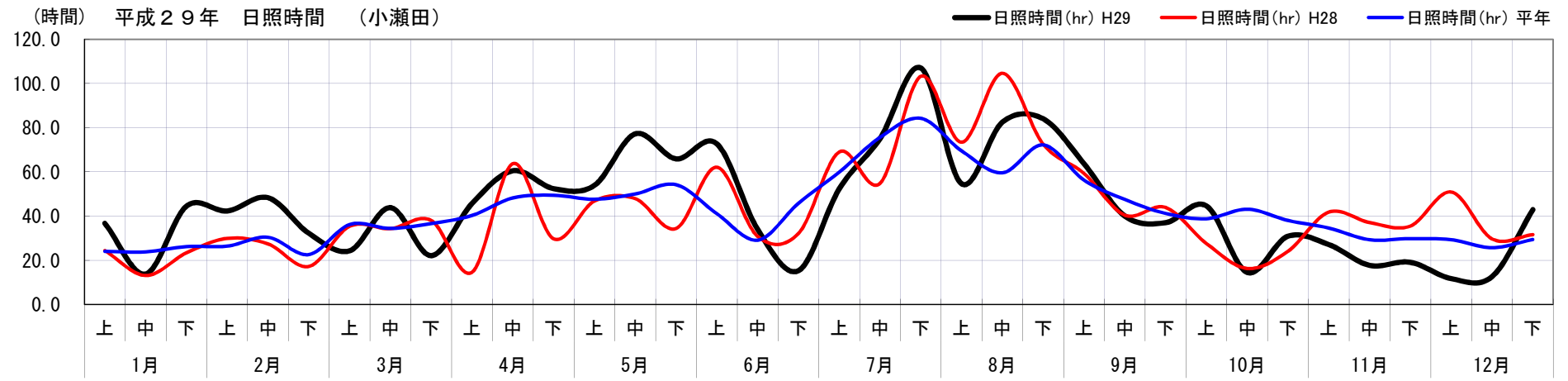
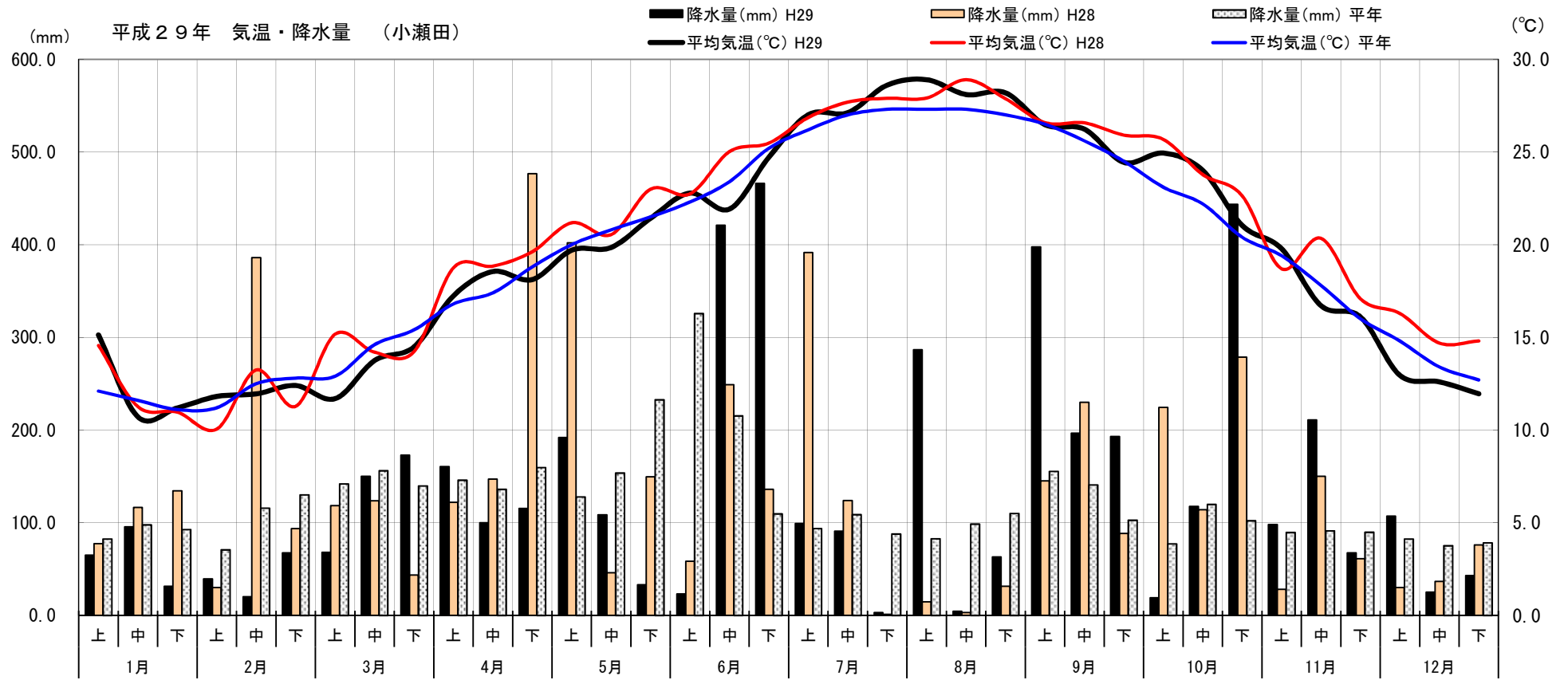
今年度から、生産安定を図るため共同育苗約11.3万本を農業管理センターが配布し、植え付け面積は増加した。初期生育は概ね順調であったが、相次ぐ台風の影響で茎葉の欠損が見られ、また、つる割病の発生したほ場が多く見られた。

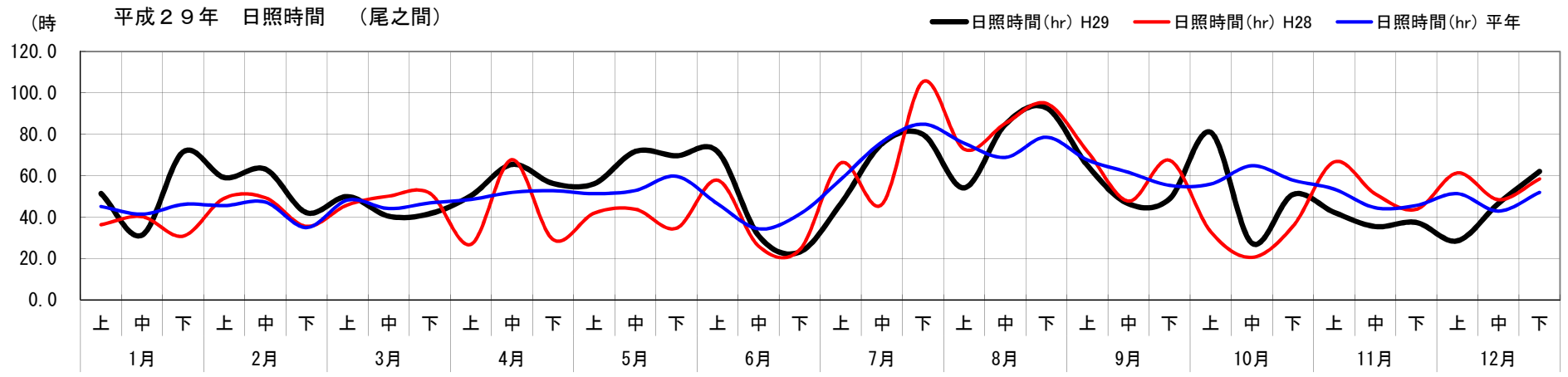
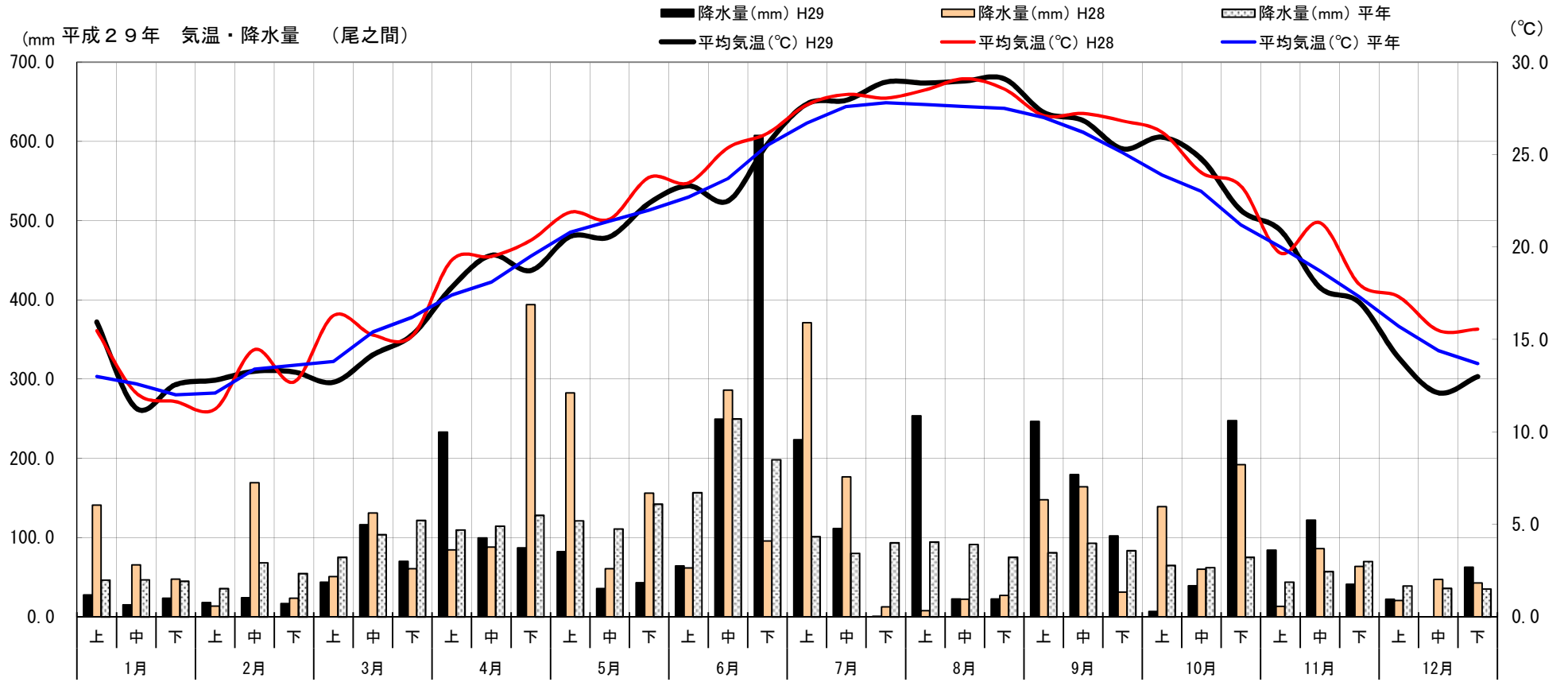
11月から12月にかけて平年より気温が低かったため収量が伸びず、つる割病の被害もあり収量の低い年となった。

### 【実えんどう】

今年から、「ミナミグリーン」から「まめこぞう」に全面的に品種を更新した。

台風の影響で、播種はやや遅れ10月中下旬となり一部再は種も行なわれた。初期生育は概ね順調であったが、は種が遅れたため出荷開始は、1月上旬からとなった。まめこぞうは食味の良い品種であるが、節間が長く草丈が高いことが欠点であり、2～3月の強風により茎や果梗枝の折れが多く見られ課題が残った。生産量は平年並みが見込まれている。







# 【屋久島におけるミカンコミバエの誘殺及び防除対応について】

## 1 ミカンコミバエの誘殺状況

誘殺日	同定日	地 点	確認数
7月5日	7月7日	小島(NO7), 永田(NO18), 長峰(NO30)	4匹
7月9日	7月10日	永田(NO20)	1匹
7月10日	7月10日	中間(NO11), 吉田(NO22)	2匹
8月1日	8月1日	高平(NO4)	1匹
8月22日	8月22日	麦生(NO69)	1匹
8月24日	8月24日	永田(NO51), 麦生(NO69)	2匹
8月28日	8月28日	尾之間(NO36)	1匹
		延べ11地点	12匹

※7月5日の永田(NO18)は2匹, 他は各1匹を誘殺・同定



ミカンコミバエ雄成虫

## 2 防除対応

### (1)トラップの増設

	既設数	増設数	撤去数	移設数	計	備考
7月8日	33基	48基			81基	NO7,18,30を中心とした増設
7月9日		14基			95基	NO20を中心とした増設
7月13日		3基	41基	19基	76基	緊急防除時と同数に再配置
8月3日			2基	2基	76基	NO4付近へ移設

※既設数及び計のトラップ設置数は, 口永良部島(1基)を含む設置数



トラップ設置状況

## (2)トラップ調査

	調査箇所		疑似個体の確認
7月7日	全トラップ	33基	NO7,18,30で確認
7月9日	NO7,18,30の半径5km以内	61基	NO20で確認
7月10日	NO20の半径5km以内 9日未調査分(口永良部含む)	53基	NO11,22で確認
7月11日	NO7,11,18,20,22,30の半径5km以内	83基	確認なし
7月13日	全トラップ	95基	確認なし
7月18日	全トラップ	76基	確認なし
7月20日	全トラップ	76基	確認なし
7月25日	全トラップ	76基	確認なし
7月27日	全トラップ	76基	確認なし
8月1日	全トラップ	76基	NO4で確認
8月2日	高平周辺(NO3,4,5)	3基	確認なし
8月3日	全トラップ	76基	確認なし
8月8日	全トラップ	76基	確認なし
8月10日	全トラップ	76基	確認なし
8月15日	全トラップ	76基	確認なし
8月22日	全トラップ	76基	NO69で確認
8月23日	高平周辺(NO2~36)	7基	確認なし
8月24日	全トラップ	76基	NO51,69で確認
8月25日	全トラップ	76基	確認なし
8月28日	全トラップ	76基	NO36で確認
8月29日	永田周辺(NO17~NO43) 春牧(NO2)~恋泊(NO42)	34基	確認なし
8月31日	全トラップ	76基	確認なし
9月5日	全トラップ	76基	確認なし
9月7日	全トラップ	76基	確認なし
9月12日	全トラップ	76基	確認なし
9月19日	全トラップ	76基	確認なし
9月26日	全トラップ	76基	確認なし
10月3日	全トラップ	76基	確認なし
10月10日	全トラップ	76基	確認なし
10月17日	全トラップ	76基	確認なし
10月18日			
10月31日	全トラップ	76基	確認なし
11月14日	全トラップ	76基	確認なし
11月28日	全トラップ	76基	確認なし
12月12日	全トラップ	76基	確認なし
12月26日	全トラップ	76基	確認なし
1月9日	全トラップ	76基	確認なし
1月23日	全トラップ	76基	確認なし
2月6日	全トラップ	76基	確認なし
2月20日	全トラップ	76基	確認なし
3月6日	全トラップ	76基	確認なし

※調査基数は口永良部を含む

(3) 寄主植物調査(ミカンコミバエ幼虫の確認結果)

・誘殺確認箇所の半径2km以内の寄主植物の採取・調査。

採取日	採取場所	採取数(速報値)	確認日	結果
7月8日	長峰(NO30)	78個	7月13日	幼虫確認なし
	小島(NO7)	245個		幼虫確認なし
	永田(NO18)	798個		幼虫確認なし
7月9日	永田(NO20)	384個	7月14日	幼虫確認なし
7月13日	中間(NO11)	478個	7月18日	幼虫確認なし
	吉田(NO22)	651個		幼虫確認なし
7月22日	小島(NO7) 永田(NO18,20) 吉田(NO22)	1,445個	7月27日	幼虫確認なし
7月23日	長峰(NO30) 中間(NO11)	1,015個	7月28日	幼虫確認なし
8月2日	高平(NO4)	670個	8月7日	幼虫確認なし
8月21日	高平(NO4)	530個	8月28日	幼虫確認なし
8月23日	麦生(NO69)	172個		幼虫確認なし
8月29日	永田地区全域	686個	9月5日	幼虫確認なし
8月30日	麦生(NO69) 麦生～原	1,146個		幼虫確認なし
	尾之間(NO36) 原～尾之間			幼虫確認なし
9月6日	尾之間(NO36) 原～尾之間	924個	9月11日	幼虫確認なし
9月11日	永田地区全域	599個	9月19日	幼虫確認なし
10月25日	島内24集落	2,339個	11月1日	幼虫確認なし
合計		12,160個		



調査打ち合わせ



寄主果実調査

(4) 誘殺板の設置

設置日	設置場所	枚数
7月9日	長峰(NO30)	450枚
	小島(NO7)	399枚
	永田(NO18)	500枚
7月10日	永田(NO20)	836枚
7月11日	中間(NO11)	193枚
	吉田(NO22)	216枚
7月13日	一湊(NO23) 永田(NO20)～吉田(NO22)の県道未設置区間 吉田(NO22)～一湊(NO23)の県道未設置区間	188枚
8月2日	高平(NO4)	306枚
8月23日 8月25日	麦生(NO69)	473枚
8月29日	尾之間(NO36) 尾之間～中間の県道未設置区間	861枚
合計		4,422枚

(5) 誘殺板の更新

更新日	更新場所	枚数
9月7日 9月8日	一湊, 吉田, 永田, 高平, 小島, 中間の集落内 永田から一湊までの県道	2,101枚
11月23日 11月24日	吉田, 永田, 高平, 麦生, 尾之間, 小島, 中間の集落内 永田から一湊及び, 中間から平野までの県道	2,443枚
合計		4,544枚

(6) 誘殺板の撤去

撤去日	撤去場所
11月24日	永田(NO18), 一湊の集落内, 長峰の県道沿い
2月26日 2月27日	吉田, 永田, 高平, 長峰, 高平, 麦生, 尾之間, 小島, 中間の集落内 永田から一湊及び, 中間から平野までの県道



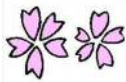
誘殺板(テックス板)



誘殺板設置

## 【ミニ情報でつづるこの1年】

4月



### ＜苗の安定供給で焼酎用さつまいもの生産拡大を推進＞

屋久島では地元焼酎メーカー向けのさつまいもの生産拡大に取り組んでいるが、他品目との労働競合で特に4月に植え付ける苗が十分確保できていない現状にある。そこで、今年から屋久島町農業管理センターで育苗を行い、4月3日から農家へ苗の供給を始めた。低温のため、苗の伸張がやや遅れたが、良質の苗が生産されており4月下旬までに計画どおり約5万本が供給される見込みである。今年6月末までに約10万本の苗の供給を計画しており、生産量も拡大すると期待されている。

### ＜屋久島生活研究グループ、がんばってます！＞

4月7日、屋久島事務所の会議室にて会員17名のうち12名参加し、総会および研修会が開催された。研修会では、会員が持ち寄った農産物や加工品についてを紹介しあった後、屋久島事務所職員を対象とした展示・即売会を実施した。このような催しを毎月実施して欲しい、など大変好評であった。会終了後は、4月23日に屋久島町ふれあいセンターで開催される「屋久島ふるさと産業祭り」での出展についても話し合った。今後も活動が継続できるよう支援していきたい。

### ＜ようやく走り新茶がスタート！＞

屋久島産一番茶が4月12日からスタートした。3月が低温で推移したため、前年に比べ8日（前々年より12日）遅れ、関係者は待ちきれない日々が続いたが、晴天に恵まれ品質・収量ともに上々の滑り出しとなっている。4月10日には10mを超える強風を受けたが、新芽に傷が付かないよう、一度被せた寒冷紗を取り外すなど、細心の注意を払った。走り新茶は、全体的な本年産の品質を占う上で重要な役割を担っており、今後も期待に応えられる産地を維持していきたい。

### ＜屋久島子牛が31頭上場、子牛育成技術改善が課題！＞

4月20～21日、種子島家畜市場において、子牛せり市が開催され、屋久島から口永良部島子牛1頭を含む31頭を売却した。屋久島本島の子牛は、昨年7～8月生まれを中心に出荷され、平均798千円（前回比16千円高）で取引された。繁殖雌牛頭数が減少している中、規模拡大志向農家もあり、増頭や子牛の商品性向上に向け、当課を中心として関係者で技術・経営支援を実施する。

5月



### ＜平成28年度産の果樹販売実績は大幅増！＞

平成28年度のJA種子屋久島支所の果樹販売実績は、249百万円（前年比156%）と増加した。販売数量は、ぼんかんが241t（同164%）、たんかんが711.9t（同254%）と増加したが、出荷量の増大による販売環境が厳しく単価は低下した。今年度産は、開花が12日程度遅れ、花数が少ない状況であるが、関係機関と連携した研修会等を通じ、高品質果実生産と生産量確保に取り組んでいく。

### ＜平成28年度ばれいしょの生産実績＞

平成28年度のJA種子屋久島支所のばれいしょは、植付け時期の10月から年内が高温で推移したため、一部に疫病や青枯病が発生し、59百万円（前年比90%）と減少した。今年度の対策としては、現在取り組んでいる疫病のスケジュール防除の徹底に加え、植付け時期の検討、輪作やリッジ等の

緑肥植付等の対策で生産安定を図ることとしている。

### <県育成品種の実えんどう「まめこそう」で生産安定を！>

屋久島では、ここ数年、県育成品種の実えんどう「まめこそう」の栽培に取り組んでいる。平成28年度は、は種時期が高温で初期生育がやや劣ったが、既存品種（ミヅグリー）と比較すると特に生育後半の生育が良く単収も高かった。29年度からは、品種を「まめこそう」に統一して生産安定を図る計画である。

### <簿記記帳グループ、今年もみんなで頑張ろう！>

簿記記帳グループ「屋久島町アグリネット」（会員数44名）は、5月9日に総会を開催し、関係機関含め計28名の参加があった。今年度は8回の簿記記帳会を予定し、さらに税制研修会も計画されており、会員の意識向上が期待される。当課からは、農業簿記を活用した経営分析診断の手法の研修を行い、今後も経営改善につながる経営支援を継続していく。

### <集落の大切な樹園地を守るには？>

5月12日、原園芸組合総会および研修会が原公民館にて開催され、関係者を含め32名の参加があった。会では、たんかん・ぼんかん品評会の講評及び表彰、今後の果樹の管理作業について研修の他、樹園地の現地確認調査を提案した。原地区では、今後農地をどのように守っていくかをテーマに村づくり委員会の下部組織として農地部会を設置し、現状確認と守るべき農地等について検討することとなった。

### <好成績に満足しないぞ！一番茶互評会を開催>

5月17日に、屋久島町一番茶互評会が開催され、町茶業振興会会員10名を含む計18名が参加した。審査員から、品種・芽格に応じた蒸し度、乾燥方法など製茶技術を細かく指導された。本年の屋久島産一番茶（県茶市場実績）は、平均単価3,657円（前年比118%）、数量13トン（同97%）、金額47百万円（同115%）と好成績であったが、まだ伸びしろは多いと激励を受け、二番茶へ向けた意欲が高まった。

6月



### <6次産業化とネットワーク化の支援、関係者で合意>

6月7日、屋久島事務所会議室にて屋久島自然の恵み販売拡大協議会総会が開催された。農林水産課・商工観光課、漁連関係者らが8名出席した。今年度は、地域振興推進事業の活用はないが、昨年に引き続き6次産業化の支援にあたっては、関係機関団体と連携を図ることとし、年3回程度開催することとなった。当課としてはイベント開催の支援や6次産業化志向農業者らのネットワークづくりの支援を図るだけでなく、販路・販売方法などニーズに応じた支援をしていきたい。

### <パッションフルーツ研修会・出荷協議会開催>

6月9日、永田地区にてパッションフルーツ研修会・出荷協議会が開催され15名が出席した。今年は昨年より約10日遅れの6月12日から集荷が始まり、販売数量は10tの計画である。今年は一地域で霜害が発生したものの、着果量はおおむね順調である。当課としては、町、JAと連携して病虫害防除や育苗指導等の支援を図っていきたい。

### <和牛振興会総会で子牛哺育技術を学ぶ！>

6月13日、町営農支援センターにおいて、第40回屋久島町和牛振興会総会が開催され、生産者20名が参加した。当課からは、子牛価格好況の中で子牛哺育期の大切さ、哺育方法や飼養管理のポイントについて研修を行った。今後も個々の技術・経営管理の向上を目指し、市場評価の高い屋久島子牛づくりを支援する。

### <ミカンコミバエ寄主果実調査を実施>

6月15、16日に島内3集落にてミカンコミバエ寄主果実調査を門司植物防疫所鹿児島支所、町、病害虫防除所、当課の14名で実施した。49地点、664果を調査した結果、ミカンコミバエ種群の寄生はなかった。今後も引き続きトラップ調査を実施し侵入警戒に努めるとともに、秋冬期に寄主果実調査を行う予定である。

### <集落として守るべき樹園地は？>

6月20日、原地区公民館にて地区内の農地マップをもとに樹園地の作付状況等を記入する作業を有志者10名の参加により実施した。2班に分かれて、作付品目、ほ場条件、管理状況、設備等整備状況等を地図に落とし、現状を確認する良い機会になった。今後は、この情報をもとにCADを活用し整理し、地区内の若手農業者を交えて、今後の営農について意見交換を行う予定である。当課としては、そのような場の設定を支援していきたい。

### <屋久団地野菜部会総会の開催、農薬の適正使用を再確認！>

6月21日、町営農支援センターにて屋久団地野菜部会総会（JA野菜部会）が開催され約20名の出席があった。総会ではH28年度の実績検討及びH29年度計画検討がなされた。H29年度重点活動として、農薬適正使用の徹底、女性部の設置、ばれいしょ等の生産安定等が決定された。当課では、ばれいしょの連作障害対策（そうか病、疫病等）を重点に支援する計画である。

### <焼酎用さつまいも苗の供給実績>

屋久島町では焼酎用さつまいもの生産安定を図るため、今年から屋久島町農業管理センターで苗を生産し農家に供給している。計画では5月末までに113千本を配布予定であったが、低温で苗の伸張が劣ったこともあり計画より遅い6月末で予定の数量を配布した。次年度の更なる苗の安定供給にむけて、9月11日に専門普及指導員に来島頂き検討会を開催することとしている。

### <口永良部島の肉用牛飼養管理状況調査&改善検討>

口永良部島では肉用牛農家3戸が、合計24頭の繁殖牛を飼養管理している。繁殖牛は放牧形態で管理されており、飼養環境は非常に良かった。しかし、栄養不足やダニが付着した個体も一部みられ、飼料給与による栄養管理や、寄生虫駆除剤による衛生対策について改善検討を行った。当課では、今後も放牧形態での飼養管理支援を行っていく。

7月



### <6次産業化に取り組む、その前に>

7月4日～5日、農大農産加工基礎研修(入門コース)が営農支援センター及びぼん・たん館で開催された。講義は24名、加工研修は18名の参加であった。当課では、この研修を6次産業化を志向する農業者の基礎研修として参加者を募集した。参加者からは、「加工活動に前向きに取り組んでいきたい農業者が多く励みになった、誰かとコラボして新商品を開発したい、基礎知識を学習できて良か

った」等の意見が出された。今後も、商品開発に向けた研修会を計画していく。

### ＜シカから守る果樹園づくり＞

幼木の果樹園で、シカによる新芽の食害被害が発生しており、その対策として、技連会でシカ被害防止ネットと電気柵の設置を検討した。町試験園にて、7月6日に町と農林普及課でネットを設置した。ネット設置後、現在のところシカによる被害はみられない。今後は、電気柵も設置して比較検討を行い、来年度以降に改植する園での指導に活用していきたい。

### ＜ミカンコミバエ初動対応実施＞

7月7日および10日、屋久島において7匹のミカンコミバエが誘殺され、対応マニュアルに沿ってトラップ調査や寄主植物調査、誘殺板（テックス板）の設置を国・県・町・農協の関係機関が一体となり実施した。28日までのところ、トラップでの誘殺や採取した寄主植物への寄生は確認されていない。今後もトラップ調査を継続し、侵入警戒に努めていく。

### ＜屋久団地花き部会の開催について＞

7月20日、屋久島町営農支援センターにおいて、JA種子屋久屋久団地花き部会の総会が開催された。屋久島の花き共販売はドラセナが中心で、面積は少ないが高品質のドラセナが生産されており、今後も高品質な生産を継続するよう協議がなされた。

### ＜経営管理、継続支援中！＞

簿記記帳グループ「屋久島町アグリネット」（会員数44名）では、7月20日から中級講座が開講した。参加者6名、パソコン簿記の記帳歴が浅い会員が中心であった。中級講座に先立ち6月26日～27日には、初級講座が開催された。この講座は、はじめてパソコン簿記に取り組む農業者が対象で参加者は1名だった。今後も継続記帳を促し、経営改善につながるよう支援する。



### ＜認定農業者、法人化やK-GAPについて学ぶ＞

8月1日、屋久島町営農支援センターで、屋久島町認定農業者連絡協議会総会が開催され、認定農業者30名が参加した。研修会では、農林普及課より法人化やK-GAPについて研修を行い、また、農作業事故防止や農業制度資金等についての情報提供もおこなった。今後も関係機関と連携を図り、認定農業者組織の育成と個別指導に活かす計画である。

### ＜新規就農者3名が地域の仲間入り！＞

8月1日、屋久島町営農支援センターで新規就農励ましの会を開催し、指導農業士、青年農業者、女性農業経営士、認定農業者、関係機関等計40名が出席し、3名の新規就農者の門出を祝った。就農者からは「色々なアドバイスを受けながら、経営を確立していきたい」等の抱負が語られた。今後、関係者一体となって、生産技術や経営の早期確立に向けた支援を行う。

### ＜「屋久島たんかん」かごしまブランド10周年記念生産者大会開催！＞

8月24日、屋久島町総合センターにおいて「屋久島たんかん」かごしまブランド10周年記念生産者大会が、生産者や来賓、関係機関など約100名の出席のもと盛大に開催された。かごしまブランドの認定証授与や、各種表彰、果樹部会長による10年のあゆみと今後の産地育成について発表があった。大会後には、鹿児島大学名誉教授の富永茂人氏による記念講演があり、次の10年に向けてよ



り一層信頼される産地として、さらなる発展を目指すことが確認できた大会になった。

### <6次産業化個別相談すすむ>

8月24日～25日、屋久島事務所において5名の相談者が、2名の県6次産業化プランナーによる個別相談会を実施した。相談の主な内容は、販路拡大や商品の評価、消費者動向であり、今回のアドバイスを参考に、商品改良や商品開発を行いたいと各相談者は大変積極的であった。今後も経営計画の実践を通して支援していく。

### <加工品販売、表示と販売戦略はいかに>

8月25日、屋久島事務所において、6次産業化を志向する農業者や農産加工者を対象とした食品表示研修会及び販売戦略研修会を、25名の参加者で開催した。参加者らは、熱心にメモをとり、添加物表示や米トレサビリティの確認、賞味期限の設定等について質問していた。今後も販売活動に必要な基礎知識を習得できる研修会を計画し、支援を図る。

### <新規就農者基礎研修会を開催！>

新規就農者基礎研修会が8月30日、屋久島町営農支援センターで開催され、新規就農者3名が出席して土壌肥料・農業経営・生活設計等を学んだ。出席した3名の新規就農者からは「質問もでき、研修内容も良く理解できた。今後もわからないことがあったら相談したい。」などの感想があった。今後も関係機関・指導農業士と一体となり、新規就農者の定着に向けた支援を行っていく。

### <屋久島地区指導農業士会総会>

8月30日、屋久島町営農支援センターで屋久島地区指導農業士会総会が開催された。屋久島地区の指導農業士は5名（果樹・茶・野菜）で、うち2名（茶・野菜）がH29年より新規会員となった。総会では、新規就農者の定着支援や青年プロジェクト課題について協議された。農林普及課は、今後も指導農業士と連携し、青年農業者や新規就農者の確保・育成に努めていく。

### <青年農業者会議で、日頃のプロジェクト成果を披露>

屋久島地区青年農業者会議が8月30日、屋久島町営農支援センターで開催され、屋久島農業青年クラブ・指導農業士・新規就農者等20名が参加した。プロジェクト活動については、6名の青年が果樹・茶・野菜のテーマで今年度の実績と来年度の計画を発表を行い、指導農業士からアドバイスを受けた。今年度は、4Hクラブやプロジェクト活動への誘導を図ることと、青年農業者同士の交流を促進するため、新規就農者も参加した。

### <町内茶園土壌を一斉診断>

8月中下旬にかけて、町茶業振興会員の12戸28点について土壌診断を実施した。今年は好市況だったこともあり、久しぶりに土作りに投資したいという声が多く聞かれ、深耕を含めた土壌改良に取り組む計画である。農林普及課では、鶏糞堆肥施用の現地試験を行い、低コストで収量・品質を高める技術支援を行っていきたい。

9月



### <食の文化祭、10周年迎える>

屋久島つわぶき会が中心となり、食の文化祭を開催して今年で10回目となる。9月14日「豆と粉を知ろう！」のテーマのもと、乳幼児を同伴した若い世代を含む参加者25名で尾之間保健センター

で実施された。研修では、粉を使った郷土菓子や豆類をふんだんに使った料理等8品の実習とそれぞれの特性や種類や栄養成分について学習した。今後も異世代が交流できる研修会を積極的に支援していきたい。

### <原園芸組合秋季研修会にて農作業時負担軽減用装着補助器具の体験>

9月28日に、屋久島町原集落にて原園芸組合秋季研修会が開催され、関係者39名が参加した。会では、果樹の栽培管理や農作業安全のほか、メーカーを招いて農作業時負担軽減用装着補助器具の実演が行われた。装着体験をした農家からは、持ち上げるのにほとんど力がかからない、もっと試したいといった感想が出た。当組合員は、ぽんかん、たんかん、ばれいしょ等を栽培し、高齢化が進む中、キャリア運搬の軽労化を模索しており、今後も省力化技術の検討支援を行っていく。

10月



### <畜産共進会開催！みんなで育成牛管理について学ぶ>

10月4日、町営旭牧場において屋久島町畜産共進会が開催され、子牛せり市後～23か月齢未満の育成牛18頭が出品され、体型審査が行われた。現在、母牛の更新は自家保留が中心となっており、出品牛の9割が町内産の牛であったが、若干の発育のばらつきがみられ、参加者一同で、育成牛の飼養管理方法を検討した。今後も優良雌牛の確保に向け、畜産共進会や研修会で飼養管理技術の高位平準化に取り組み、屋久島の肉用牛振興の支援を図っていく。

### <秋期茶園管理研修会を開催>

10月6日に、現地就農トレーナー研修と町茶業振興会秋期茶園管理研修会を合同で開催し、関係者25名が参加した。午前の部は経済連茶事業部と普及情報課専門普及指導員による、「ゆたかみどりの品質改善」等について室内研修を行い、午後の部は深刈り更新の実証ほ場を中心に現地研修を行った。本年は最終摘採からの生育期間が十分確保されており、茶園状況は良好である。参加者も非常に多く、活気溢れる研修会となった。

### <さつまいも苗生産システム検討会を開催>

10月19日、町農業支援センターにてさつまいも苗生産システム検討会を開催し、関係者7名が参加した。屋久島では、今年から焼酎用さつまいもの生産安定を図るため、農業管理センターにてさつまいもの苗を生産しており、H29年度実績として約11万本を農家に供給した。検討会では、普及情報課専門指導員を要請し、育苗の課題や次年度に向けた改善点等について助言指導を頂き相互検討を行った。11月下旬には農家を集めて育苗検討会を開催し更なる生産安定を図る。

### <経営戦略の武器となる商標について学ぶ>

10月24日、屋久島事務所の会議室にて知的財産権の基礎と商標について、鹿児島県知財総合支援窓口を通じて産官学連携推進センターの高橋省吾教授を講師とし、10名の参加で研修会と個別相談会を開催した。研修では、「知財権は、経営戦略上の武器でうまく活用すると競争力の武器につながり、身を守る手段である」と学んだ。個別相談では、「商標の出願をするにはどうしたらよいか？」など3名から相談があった。今後も、専門家を活用し、商品性向上の支援に努めたい。



### ＜農業大学校同窓会屋久島支部、交流会を開催＞

11月7日に屋久島町営農支援センターにて、農業大学校同窓会屋久島支部が交流会を開催し、会員10名が参加した。年代は20～40歳代と幅広く、経営品目を越えた情報交換や互いの近況を語り合うなど有意義な時間になった。参加者は「これを機会に積極的に農大を紹介し、将来の屋久島農業を支える人材確保に貢献していきたい」と話していた。

### ＜屋久島自然の恵み商談会の開催＞

11月8日、屋久島町総合センターにて第2回屋久島自然の恵み商談会が開催された。出展者は、10事業者14名（6次産業化志向事業者5、商工事業者5）島内バイヤー6事業所（宿泊業、土産店、飲食店）8名、島外バイヤー（6次産業化プランナー2名）島内消費者等8名、関係者18名であった。アンケート調査を実施した結果、95%が興味を持った商品があり、100%が商談会に満足し、次回も参加したいと回答した。今後も販路拡大につながるよう継続支援していく。

### ＜屋久島和牛改良組合、分娩間隔の部で3年連続表彰＞

屋久島和牛改良組合はH27～H29年にかけて「分娩間隔の部」において全国450組合のうち上位15組合に入賞し、第11回全国和牛能力共進会にて表彰を受けた。そこで、今後も農家と関係者一体となり肉用牛の改良の気運を高めるため、11月9日に町営農支援センターにおいて農家と関係者32名が出席し、祝賀会が盛大に開催された。今後も優良雌牛の自家保留等や分娩間隔の短縮への意識啓発を図り、取り組みを支援する。

### ＜生活研究グループ機関誌「こだま」46号発行、長年の活動の功績表彰される。＞

屋久島生活研究グループでは、活動の一つとして機関誌「こだま」を年1回発行している。グループ員はもちろんのこと農林普及課員やかつての担当者らにも寄稿してもらい、11月17日に第46号を発行した。この機関誌を作成することで、1年間の活動の記録及び活動を振り返る良いきっかけとなっている。また、10月28日屋久島町町制施行10周年記念式典が開催され、長年、生活研究グループ員として活動してきた2名が表彰された。今後も継続した活動ができるよう支援する。

### ＜経営者クラブいぶすき支部と交流会を開催＞

11月20～21日に、屋久島農業経営者クラブ員6名と町認定農業者連絡協議会員6名の合同で、農業経営者クラブいぶすき支部との交流会を開催した。現地では、スナップえんどうとそらまめの栽培方法やIPMの取組について研修し、交流会では、いぶすき支部8名を含む25名が参加し、クラブの活動状況やクラブ員の経営状況など、熱のこもった情報交換が出来た。当クラブでは、合同研修を機会に勧誘活動を行っており、昨年1名、今年も1名の新規加入を見込んでいる。

### ＜黒葛原翁ぼんかん祭開催＞

11月21日、平内地区にて黒葛原翁ぼんかん祭が開催され、生産者29名、関係機関・団体10名の計39名が出席した。黒葛原兼成翁が大正13年に屋久島にぼんかんを導入したことから、翁の功績を称え、式典と原木の見学、翁の墓参りを行った。今年のぼんかんの出荷が順調に進み、今後の産地維持に向けて生産者・関係機関が連携して取り組んでいく。

### <焼酎用さつまいも生産対策会議の開催>

11月22日、屋久島事務所及び屋久島町営農支援センターの2会場において焼酎用さつまいも生産対策会議を開催し、生産農家11名、関係機関・団体5名の計16名の出席があった。今年から農業管理センターで取り組んでいる苗供給に対する実績と次年度計画、近年発生が多いつる割病の対策等を協議した。農家からは、次年度も苗の継続供給要望や育苗床の土壌消毒に取り組みたいとの意見が出された。

### <雇用者の労務管理について学ぶ>

11月28日、屋久島事務所会議室で、法人化志向農家、法人農家、関係者など14名の参加で、労務管理研修会を開催した。講師に吉留千代子特定社会保険労務士を招き、①労務管理のポイント②就業規則③社会保険と雇用保険についての研修内容であった。多数の質問もあり、参加者の関心の高さがうかがえた。今後も経営の発展に向け、支援をしていく。

12月



### <小学校で5年ぶりに食育支援活動が復活！>

屋久島町内小学校3校で、5年ぶりに食育支援活動が復活した。12月5日の永田小学校では、1年生から6年生まで全児童25名が参加した。生活研究グループ員4名が、校内で栽培されたさつまいもを使った郷土料理やお菓子4品を、児童がわかりやすいように工夫して、調理実習の指導を行った。児童から「郷土料理を体験できて良かった、美味しかった」と感想があった。当課は、今後も食育活動を支援していく。

### <屋久島産ぼんかんが初せり>

12月7日、農協共販の屋久島産ぼんかんが初せりとなり、個販を含めると鹿児島中央青果に700箱、鹿児島青果に400箱の合計約1,100箱が出荷された。今年のぼんかんは台風による減収はあったものの、品質は平年並みで、価格は農協共販で2L・Lは3,000円/5kg程度、Mは2,000円/5kg程度で取引された。当課では、今後も産地維持に向け、品質向上や収量増加などの技術と経営の両面から支援していく。

### <実えんどう「まめこぞう」現地検討会>

屋久島町では、今年から実えんどうの品種を県開発品種の「まめこぞう」に統一し栽培している。12月11日に現地検討会を開催し、生産者9名の参加があった。検討会では、まめこぞうが11節前後の低節位から莢が着くことが生産者から好評であった。今年の作柄は台風の影響で、は種が遅れたが概ね順調な生育で、1月上旬からの出荷を計画している。

### <屋久島子牛が43頭上場、昨年より子牛出荷頭数が増加！>

12月12～13日、種子島家畜市場にて子牛せり市が開催された。屋久島町から去勢22頭、めす21頭が上場され、平均766千円（前回比40千円高）で取引された。H29年の子牛出荷頭数は良好な繁殖成績や規模拡大により、昨年より11頭増加の365頭（自家保留含む）となった。当課は規模拡大志向農家を中心に、経営計画の実践支援や子牛の商品性向上に向けた技術支援を実施しており、今後も産地拡大に向け関係機関と連携した支援を行っていく。

### ＜原地区でぼんかん品評会が開催される＞

12月15日、原地区でぼんかん品評会が開催され、出品された22点について、着色や糖度などを審査・採点を行った。今年は平年より10日ほど開花が遅れたが、色つきは1週間から10日程度早かったことから着色は良好で、糖度は平年並であった。審査後、会場は、ぼんかんのさわやかな香りにつまれながら、生産者のぼんかんの出来談義が続いていた。当課では、今後も地区の活性化が図られるよう支援していきたい。

1月



### ＜原園芸組合、樹園地マップをもとにワークショップ開催＞

1月14日、原公民館にて原地区樹園地マップをもとにしたワークショップを実施し、園芸組合員ら29名が参加した。世代ごとに3班に分かれ①「ぼんかんを今後どう考えるか？」②「5,10年後どう思うか？」③「農地を維持するための農地の利活用は？」のテーマでKJ法を使って現状・課題・対策など意見を出し合った。今後は、これらの意見を踏まえて、園芸組合の行動計画(案)を作成する予定であり、産地の維持と農地の維持のために引き続き支援していく。

### ＜屋久島つわぶきの会総会開催＞

1月16日、屋久島事務所会議室にて屋久島つわぶき会(会員は女性農業経営士等)総会が開催され、会員8名と関係者4名が出席した。事業報告や計画等の協議のほか、若手女性農業者との交流のあり方や来年度受け入れ予定の「県農村女性リーダーネットワーク先進地研修」の研修先等について検討を行った。総会終了後は、会員の手作り持ち寄り品を介して活発に情報交換がなされた。今後も組織運営について引き続き支援していく。

### ＜屋久島農業経営者クラブ総会を開催＞

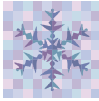
1月19日に屋久島農業経営者クラブ総会が開催され、クラブ員11名と関係機関6名が出席した。事業報告や計画等の協議のほか、いぶすき支部での研修が報告された。また、情報交換会では、新規会員確保へ向け活発な意見交換が行われていた。当課では、新しく会員勧誘用リーフレットを作成しており、会員増への支援も積極的に行っていきたい。

### ＜屋久島産子牛、H30年も高値でスタート＞

1月25～26日、種子島家畜市場の子牛せり市で、屋久島町産の子牛43頭が売却され、平均価格727千円(前回比39千円安)と、H30年も高値の取引で始まった。また、せり市前には当事務所より、規模拡大や子牛の商品性向上だけでなく、繁殖成績の向上で更に儲かる経営ができるよう「分娩間隔の短縮」について研修会を行った。農家からは分娩間隔の短縮に取り組みたいとの声も多く、今後も継続した支援を行っていく。

### ＜ソロヤム(やまいも)の出荷始まる、良質種子で生産安定を！＞

屋久とろの原料として栽培されているソロヤムの出荷が最盛期を迎えている。出荷先の企業見込みでは、台風の影響でやや小玉傾向であるが平年並みの収穫量を見込んでいる。また、ソロヤムの生産安定を図るため、数年前からソロヤム増収対策協議会で原種生産を農業開発総合センター熊毛支場に委託しており、良質なソロヤム生産に寄与している。今年も約700kgの原種を供給してもらい優良種子の確保を図ることとしている。



### ＜屋久島たんかんはさみ入れ式が開催される＞

2月1日に、屋久島町小島集落にてJA種子屋久屋久島果樹部会の平成29年度産たんかんはさみ入れ式が開催され、生産者や関係機関等60名が出席した。豊作や安全祈願の神事が行われた後、はさみ入れが行われた。昨年度は、農協共販量が712tと豊作であったが、今年度は裏年に加え相次ぐ台風の影響で、昨年比50%の350t程度の出荷量が見込まれている。

### ＜青年農業士に認定される！＞

2月2日、シェイドガーデンパレスにて農業士等認定証交付式が開催された。屋久島町からは、課題解決プロジェクトや青年クラブに積極的に取り組む青年1名（果樹）が青年農業士に認定された。今後も、プロジェクト活動等の支援を継続し、青年農業士が地域農業に貢献する人材として、さらなる活躍が期待される。

### ＜町内茶業で初のK-GAP現地審査を実施＞

2月6日に、屋久島町茶業では初となるK-GAP現地審査が実施され、申請者2名を含む5名が出席した。申請者は有機JAS認証を取得しているが、さらに安心・安全性向上を目指しており、指摘事項を前向きに改善していきたいと話していた。町内では、全6工場中4工場がGAP認証を取得することとなり、今後も生産工程の改善支援を継続していきたい。

### ＜堆肥コンクールで上位入賞！＞

2月6日、県青少年会館にて平成29年度県堆肥コンクール表彰式があり、(有)宝珠産業が奨励賞を受賞した。受賞堆肥は牛糞を主体とし、生ゴミ等も含まれる混合堆肥で、出品点数50点の中から、色・臭気・品質等が審査され、上位入賞を果たした。出品者は「審査結果をもとに、さらなる良質堆肥の生産に取り組みたい」と抱負を語っていた。今後も屋久島産堆肥を活用した、循環型農業の展開を支援していく。

### ＜屋久島東部茶生産組合総会を開催＞

2月9日に、安房公民館にて屋久島東部茶生産組合総会が開催され、組合員10名と関係者6名が出席した。当組合の平成29年販売額は、前年比122%で2年連続の増収となっており、栽培体系の改善効果を実感できる結果となった。適時適切な茶園管理が確立するように、支援を継続していきたい。

### ＜全国エコツーリズムin屋久島で6次産業化商品をPR＞

2月10日、全国エコツーリズムin屋久島の交流会で、屋久島自然の恵み商談会に出店した8事業者が、商品PRや商品販売を行った。交流会には島外者70名、島内者30名の参加があり、出店者は茶・ウコン・たんかん・水産の加工品など自社商品のPRをしながら参加者との交流を図っていた。今後も関係機関団体と連携を図り、商品PRや商品販売の機会づくりの支援をしたい。

### ＜簿記記帳グループの決算指導会に42名が参加＞

簿記記帳グループ「屋久島町アグリネット」（会員数44名）は、2月15、16日に税理士を招いて決算指導会を開催し、計42名の参加があった。参加者はそれぞれ決算書等のチェックを受け、申告までを終えた。会員はパソコンでの簿記記帳が多く、当課は記帳支援だけでなく、研修会を通して、

過去の記帳や決算を活用した経営分析の方法や経営改善につながる支援を継続していく。

### <たんかん品評会が2地区で開催>

2月16日に尾之間地区、19日に原地区でたんかん品評会が開催された。それぞれ13点、22点が出品され、着色や糖度などを審査・採点した。今年は平年より12日ほど開花が遅れ、度重なる台風の影響を受けたが、着色や玉揃いは良好で、糖度は平年並で食味の良いたんかんであった。当課では、今後も地区の果樹振興が図られるよう支援していきたい。

## 平成29年度活動体制

職 名	氏 名	担 当 業 務
農林普及課長	井口 寿郎	課の総括
農業普及係長	蛭原 直人	係の総括, 野菜, 作物, 花き, 担い手
技術専門員	上福元真寿美	経営, 地域営農, 食育・地産地消
技術主査	眞正 清司	茶, 土壌肥料, 有機農業
農業技師	濱上 修作	果樹, 青年農業者育成, 病害虫
農業技師	東原 大	畜産, 新規就農者育成, 制度金融